

「剩女」の言い分と  
現代中国の結婚難

シエンニユー

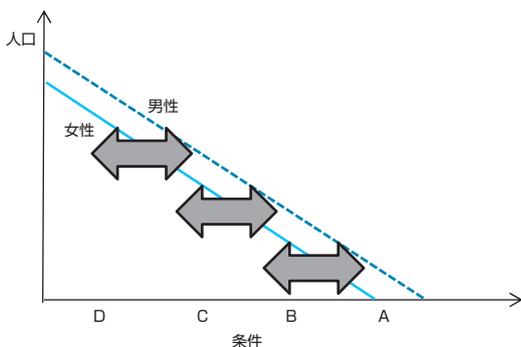
山口 真美

最近、以前日本で知り合ったL嬢と五年ぶりに再会した。L嬢は中国の経済系の中央官庁のキャリアで中国社会の超エリートである。日本への研修は英語で修了して、英語を流暢に話す。以前の学生っぽい雰囲気とは一変し、フォーマルな装いをしたこの日は成熟した女性らしい雰囲気を身にまとって、筆者はちよつと気後れした。高価そうなスマートフォンを片手に、次々と筆者に短いこの日本滞在中に会いたい人、したいことを伝え、それらの手筈を整えてほしいと、「指示」。その、人を使い慣れた態度や話しぶりに、出世して偉くなっているに違いないと想像してしまう。

翌日、ランチを一緒にしながら話をしたら彼女はまだ独身だった。改めて確認したところ記憶のとおり、筆者と同じ一九七六年生まれの三七歳。去年、北京の郊外に自分でマンションを購入して、故郷から両親を呼び寄せて同居している。車も持っているらしい。中国で「剩女」と呼ばれる、高学歴高所得の未婚女性（一般に、三代以上を指す）の典型である。結婚の意思はあり、その後何人かの男性と付き合ったが、なかなか結婚にこぎ着けないという。原因は、相手の男性が優柔不断であったり、価値観が合わなかったり、すべて自分に非はない、とL嬢。彼女が相手に求める条件は、自分と対等であり、成熟していて、自立した男性。年齢はこだわらないが、中国の男性は年上の女性を嫌うので年下はないだろう。離婚歴があってもいいが、前回の結婚から何かを学び、前進した人であればまた同じことになるのではないかと思う。

L嬢がいうには、中国の男性が結婚相手に求める条件は、一に若く、二に美しく、三に自分以下（不如此己）の女性。問題は三で、中国には自分と対等の女性を求める男性はいないという。あまりに伝統的で、あまりに「大男子主義（男尊女卑）」でしょう？中国男性は木に寄りかかると小鳥のように自分に寄り添う女性を求めている、そんなのは私には到底できない。だから男女の人数と格付けが二本の平行な直線であったとして、一番上層の女性たちはいわゆる「剩女」、つまり結

図1 中国人の結婚相手に求める条件の概念図



(注) A、B、C、Dは結婚に関する条件の善し悪しのランク付けを想定。矢印はAランクの男性はBランク女性以下を、Bランク男性はCランク女性以下を、Cランク男性はDランク女性以下を相互に理想の結婚相手と想定しているということを示す。なお、中国の男女別人口比が117:100(2013年)であることから、男性を表す青い点線をやや上方に位置させた。  
(出所) L嬢の話を中心に、筆者作成。なお、男女をそれぞれA、B、C、Dとランク付けする見方は遠藤誉「中国「A女」の悲劇」(日経ビジネスオンライン連載コラム2008年2月15日～2010年3月3日)を参考にした。

婚できない女性たちになると、説明してくれなかった。その説明は図示すれば以下のようなものである。彼女と釣り合う男性たちはすでに既婚者か、そうでなくても彼女の理論によればL嬢のような上層の女性ではなく、格下の女性たちのなかから若く、美しい女性を選ぶからである。以下、格上とか格下とか、耳障りな言葉があつて恐縮だが、あえて会話の直訳にお付き合いたい。L嬢の話聞きつつ、筆者は彼女を含む中国の「ハイエンド女性（高端女）」たちと釣り合う未婚の男性がたしかに少ないだろうことには同情した。ただ、なんだか違

和感も大きい。違和感のひとつ目は、彼女が語ったこれまで付き合った男性評からくるもので、優柔不断だとか、価値観が違うというものの、あまりに断定的で自分中心的でさえある話しぶりに、相手に求める条件が厳しいか、えり好みしすぎなんじゃないかというもの。二つ目は中国の男性が結婚相手に求める条件について。若く、美しくの二つはさておき、自分以下の女性がいいなんてこと、本当に中国の男性たちは思っているのだろうか？筆者の友人や知人の中国人男性たちは、謙虚でむしろ妻や彼女をよく立て、尊重する人たちばかりだからだ。むしろ、有能で稼ぎも多い奥さんを自慢し、よくサポートしてくれそうな気がする。一般的に、中国人男性の方が日本人よりもずっと家事にも育児にも協力的で、男女の関係が平等だというのが筆者を含め、中国と付き合っている日本人の共通した評価だといってもいい。

聞いてみなくては、フェアでないだろう。そこで、この疑問を議論好きの友人、J（三八歳・男性）にぶつけてみた。ちなみに彼は既婚者で、この話題についての発言権は十分ある。「知人のハイエンド女性が」とL嬢の話をして、中国人の男性は結婚相手に若く、美しく、「自分以下」の女性を求めらるって本当かと、聞いてみた。Jの答えは意外にも、「基本的にそうだった。若く、美しく」は議論しないことにして、なぜ「自分以下」でなければいけないのか、対等ではないのか？と続けて聞いてみたところ、Jの答えはこうだった。

「まず、対等の女性は年齢も高い（やはり若い方がいいらしい）。それに、対等だと結婚後、矛盾が起きた時にどちらも譲らない事態に陥るからだ。」

なんだ、やっぱりあなたも自分の言い分を通したいのか。やっぱり「大男子主義」だと笑ったら、別に自分の言い分を通したいからではなく、その方が「手間が省ける」からだ、という。「女性は結婚後いろいろなこと執着する。美人なだけの相手しておいた方が手間が省ける。夫の方が能力が

あり、お金があれば夫の言い分に従うからさ」と、なんだかいよいよ「大男子主義」な見方が露わになってきた気がする。やや弁解するとすれば、中国の女性は本当に強く、夫婦で争いになった場合の男性たちの苦労は私たちの想像以上かもしれない。それに、Jはリベラルな考えを持つインテリで、実際少し年下の同業者の妻を十分に尊重している。だから実際にはいかに普遍的なの？と聞いてみると、「かなり」とのこと。だとすると、外からみると対等でむしろ女性優先的にさえみえる中国の男女関係、夫婦関係だが、深層の意識の部分には驚くほど男尊女卑的な伝統思想が潜んでいるとみるべきなのかもしれない。ここまでJと話してやると、筆者は心からL嬢に同感、同情した。これは何も「ハイエンド女性」でなくても、現代女性には受け入れられない意識のありようかもしれない。

しかしJは、これは男尊女卑ではなく社会の習俗で、それに反せば親戚友人がとやかくいうし、そもそも女性側も自分より上の男性を求めている、「門当戸対」つま

り家の釣り合いが取れていることが重要、という。だからハイエンド女性に釣り合う条件のいい男性は格下女性や年下女性を含め選択肢が多く、ハイエンド女性の結婚相手は数が限られるということだった。男性側からみた結婚相手の条件は、Jによればあくまでも自分の条件を基準に、相手は自分以上ではなく、かといってあまりに下過ぎもせず、全体的に「門当戸対」であること。もちろん、美人がいいに決まっているけれど、決して主要要求ではないとのことだった。

「門当戸対」って、条件って何か、今度はわからなくなってくる。Jに解説を求めたら、家庭環境、職業、資産、容姿だという。ちなみに最もよいとされる条件は、何といても役人またはお金持ちである。ハイエンド女性のL嬢、リベラルで都会的なJを含め、現代中国の同世代たちの驚くほど伝統的な結婚観を支えるのは、中国でいうところの周囲の人々の「関心」、いわゆる世間の目かもしれない。

（やまぐち まみ／アジア経済研究所 東アジア研究グループ）